



SIOS Protection Suite for Linux

v9.0.2

リリースノート

2016年3月

本書およびその内容は SIOS Technology Corp. (旧称 SteelEye® Technology, Inc.) の所有物であり、許可なき使用および複製は禁止されています。SIOS Technology Corp. は本書の内容に関していかなる保証も行いません。また、事前の通知なく本書を改訂し、本書に記載された製品に変更を加える権利を保有しています。SIOS Technology Corp. は、新しい技術、コンポーネント、およびソフトウェアが利用可能になるのに合わせて製品を改善することを方針としています。そのため、SIOS Technology Corp. は事前の通知なく仕様を変更する権利を保留します。

LifeKeeper、SteelEye、および SteelEye DataKeeper は SIOS Technology Corp. の登録商標です。

本書で使用されるその他のブランド名および製品名は、識別のみを目的として使用されており、各社の商標が含まれています。

出版物の品質を維持するために、弊社は本書の正確性、明瞭性、構成、および価値に関するお客様のご意見を歓迎いたします。

以下の宛先に電子メールを送信してください。

ip@us.sios.com

Copyright © 2016

By SIOS Technology Corp.

San Mateo, CA U.S.A.

All rights reserved

目次

SIOS Protection Suite for Linux リリースノート	1
はじめに	1
SPS の製品説明	1
LifeKeeper for Linux	1
DataKeeper for Linux	2
SPS コンポーネント	2
SPS コア	2
SPS のオプションリカバリソフトウェア	3
SIOS Protection Suite for Linux Version 9 の新機能	6
バグの修正	7
システム要件	9
SPS の製品要件	9
オプションの SPS リカバリソフトウェアの要件	9
クライアントのプラットフォームとブラウザ	12
インストールおよび構成	12
アップグレード	12
ストレージとアダプタのオプション	12
テクニカルノート	13
pdksh の場所の変更	13
既知の問題	13

SIOS Protection Suite for Linux リリースノート

バージョン 9.0.2

重要!!

本製品をインストールまたは使用する前に、必ずこのドキュメントをお読みください。
このドキュメントには、インストール時とその前後に留意すべき重要な項目に関する情報が記載されています。

はじめに

このリリースノートの対象読者は、SIOS Protection Suite (SPS) for Linux 製品のインストール、設定、管理を行うユーザーです。このドキュメントには、LifeKeeper および DataKeeper の正式マニュアルには詳細に記述されていない重要な情報、たとえば、製品の最終テスト時に明らかになったパッケージのバージョン、指示や手順に関する最終段階での変更点、トラブルシューティングセクションへのリンク、製品の制限、トラブル解決のヒントなどが記載されています。SPS ソフトウェアをインストールして設定する前に、必ずこのドキュメントの内容を確認してください。

SPS の製品説明

LifeKeeper for Linux

LifeKeeper 製品には、Linux 上で動作するファイルシステム、ネットワークアドレス、アプリケーション、プロセスの高可用性を実現する障害検出リカバリソフトウェアが含まれます。LifeKeeper は複数のサーバにまたがった特定のアプリケーションの構成と切り替えをサポートしています。アプリケーションが構成されたサーバには優先順位が割り当てられ、障害が複数発生した場合、この優先順位によってサーバからサーバへアプリケーションを移動する順序が決定されます。

LifeKeeper for Linux は各種システムリソースをスイッチオーバー機能によって保護します。次の種類のリソースの自動リカバリが可能です。

- プロセスとアプリケーション
- 共有ストレージデバイス
- Network Attached Storage デバイス
- LVM ボリュームグループと論理ボリューム
- ファイルシステム (ext3、ext4、vxfs、xfs、nfs) **注記**: btrfsは、現在 SIOS Protection Suite for Linux でサポートされていません。
- 通信リソース(TCP/IP)
- データベースアプリケーション (Oracle、MySQL、PostgreSQL、EnterpriseDB Postgres Plus Advanced Server、EnterpriseDB Postgres Plus Standard Server、Sybase)
- Web サーバリソース (Apache、Apache SSL)

- Samba リソース (ファイル)
- DataKeeper for Linux
- SAP アプリケーション環境 リソース
- Software RAID (md) リソース
- WebSphere MQ リソース
- Postfix リソース

LifeKeeper for Linux は、下記のリソースタイプに対するディザスタリカバリプロテクションを提供します。

- 共有ディスクを使用した Linux Multi-Site Cluster 構成

DataKeeper for Linux

SIOS DataKeeper 製品 :

- ボリュームベースの同期および非同期のデータレプリケーションを提供します。
- 管理および監視のために LifeKeeper Graphical User Interface に統合します。
- システムリカバリ時にソースサーバとターゲットサーバの間でデータを自動的に再同期化します。
- 基礎システムコンポーネントの状態を監視し、障害時にローカルリカバリを実行します。
- 手動によるリソースの切り替えおよびミラーボリュームのフェイルオーバーが可能です。
- 新機能に対応できるよう、ライセンスキーを使用して簡単にアップグレードでき、高可用のクラスタリングと自動フェイルオーバーおよびリカバリを提供できます。

SPS コンポーネント

SPS コア

SPS for Linux がバンドルされ、64bit システム(AMD64、EM64T システム)でのみ稼動しています。

SPS Core Package Cluster には次のインストール可能なパッケージが含まれます。

パッケージ	パッケージ名	説明
LifeKeeper Core	steeleye-lk-9.0.2-6513.x86_64.rpm	LifeKeeper パッケージは、メモリ、CPU、OS、SCSI ディスクサブシステム、ファイルシステムなどの中核システムコンポーネントに関連した障害リカバリソフトウェアです。
DataKeeper Core	steeleye-lkDR-9.0.2-6513.noarch.rpm	DataKeeper パッケージはデータレプリケーション(インテントログを使用する同期または非同期のミラー)を提供します。

SPS のオプションリカバリソフトウェア

パッケージ	パッケージ名	説明
LifeKeeper GUI	steeleye-lkGUI-9.0.2-6513.x86_64.rpm	LifeKeeper GUI パッケージは、LifeKeeper および DataKeeper の管理および健全性監視用のグラフィカルユーザインターフェースです。
SPS IP Recovery Kit	steeleye-lkIP-9.0.2-6513.noarch.rpm	SPS IP Recovery Kit には、IP アドレスの自動切り替え用のリカバリソフトウェアが備わっています。
SPS Raw I/O Recovery Kit	steeleye-lkRAW-9.0.2-6513.noarch.rpm	SPS Raw I/O Recovery Kit は、raw I/O を使用してカーネルのバッファリングを迂回するアプリケーションをサポートします。
LifeKeeper Man Page	steeleye-lkMAN-9.0.2-6513.noarch.rpm	LifeKeeper マニュアルページパッケージには、SPS 製品のリファレンスマニュアルのページが含まれています。

注記: LifeKeeper 7.5 以降には、steeleye-lkHLP rpm パッケージは含まれていません。steeleye-lkHLP が含むオンラインヘルプは LifeKeeper GUI から起動することが可能です。オンラインヘルプは SIOS テクニカルドキュメンテーション (<http://jpdocs.us.sios.com/>) から参照可能です。このドキュメンテーションは LifeKeeper GUI のヘルプメニューから起動することができます。

注記: LifeKeeper 8.2 以降には、CCISS Recovery Kit (steeleye-lkCCISS rpm パッケージ) は含まれていません。HP ストレージデバイス (CCISS) を DataKeeper とともに使用し、v8.2 以降にアップグレードする場合は、アップグレードの前に DEVNAME device_pattern ファイルを設定する必要があります (DataKeeper トラブルシューティングセクションを参照)。

SPS のオプションリカバリソフトウェア

次のオプションソフトウェアは、記載してあるバージョンのアプリケーション用のリソース定義およびリカバリソフトウェアを提供します。

パッケージ	パッケージ名	説明
SPS Apache Web Server Recovery Kit	steeleye-lkAPA-9.0.2-6513.noarch.rpm	SPS for Linux Apache Web Server Recovery Kit を使用することにより、SPS 環境で Apache Web Server ソフトウェアの障害回復が可能になります。
SPS SAP Recovery Kit	steeleye-lkSAP-9.0.2-6513.noarch.rpm	SPS for Linux SAP Recovery Kit は、SPS 環境で障害の発生したプライマリサーバからバックアップサーバに SAP NetWeaver を復旧する仕組みを提供します。また、他の SPS Recovery Kits と連携して包括的なフェイルオーバー保護を提供します。
SPS SAP MaxDB Recovery Kit	steeleye-lkSAPDB-9.0.2-6513.noarch.rpm	SAP MaxDB Recovery Kit を使用することにより、SPS for Linux 環境で SAP MaxDB データベースの障害回復保護が可能になります。

SPS のオプションリカバリソフトウェア

パッケージ	パッケージ名	説明
SPS DB2 Recovery Kit	steeleye-ikDB2-9.0.2-6513.noarch.rpm	SPS for Linux DB2 Recovery Kit を使用することにより、DB2 データベースインスタンスの障害回復保護が可能になります。SPS は、DB2 Universal Database 製品ファミリと連携し、わずかなダウンタイムで人手を介さずにデータベースサーバの障害を効果的に復旧することにより、DB2 の運用環境に高可用性をもたらします。
SPS Oracle Recovery Kit	steeleye-ikORA-9.0.2-6513.noarch.rpm	SPS for Linux Oracle Recovery Kit ソフトウェアを使用することにより、Oracle データベースのデータ整合性と SPS によって実現される可用性の向上を結び付ける仕組みが提供され、SPS 環境の Oracle ソフトウェアの障害回復が可能になります。
SPS MySQL Recovery Kit	steeleye-ikSQL-9.0.2-6513.noarch.rpm	SPS for Linux MySQL Recovery Kit を使用すると、SPS の障害回復保護機能を MySQL リソースに簡単に追加できます。これにより、プライマリデータベースサーバで障害が発生しても、人手の介入なしに迅速に指定のバックアップサーバで復旧することが可能になります。
SPS PostgreSQL Recovery Kit	steeleye-ikPGSQL-9.0.2-6513.noarch.rpm	SPS for Linux PostgreSQL Recovery Kit は、SQL に準拠した、POSTGRES をベースとするオブジェクトリレーショナルデータベース管理システム (ORDBMS) です。SPS 内で PostgreSQL インスタンスを保護する仕組みを提供します。
SPS Sybase ASE Recovery Kit	steeleye-ikSYBASE-9.0.2-6513.noarch.rpm	SPS for Linux Sybase ASE Recovery Kit は、Sybase ASE コンポーネントの Adaptive Server、Monitor Server、Backup Server に対し、SPS によるリソース保護を提供するものです。
SPS Postfix Recovery Kit	steeleye-ikPOSTFIX-9.0.2-6513.noarch.rpm	SPS for Linux SAP Recovery Kit は、SPS 環境で障害の発生したプライマリサーバからバックアップサーバに Postfix を復旧する仕組みを提供します。
SPS Samba Recovery Kit	steeleye-ikSMB-9.0.2-6513.noarch.rpm	SPS for Linux Samba Recovery Kit は、異種ネットワーク内の Linux サーバ上の Samba によるファイルと印刷の共有に対して障害回復保護機能を提供します。これにより、プライマリ Samba サーバで障害が発生しても、人手の介入なしに迅速に指定のバックアップサーバで復旧することが可能です。
SPS NFS Server Recovery Kit	steeleye-ikNFS-9.0.2-6513.noarch.rpm	SPS for Linux NFS Server Recovery Kit は、SPS 環境の Network File System (NFS) ソフトウェアに対して障害回復保護機能を提供します。これにより、プライマリ NFS サーバで障害が発生しても、人手の介入なしに迅速に指定のバックアップサーバで復旧することが可能です。

SPS のオプションリカバリソフトウェア

パッケージ	パッケージ名	説明
SPS Network Attached Storage Recovery Kit	steeleye-1kNAS-9.0.2-6513.noarch.rpm	SPS for Linux Network Attached Storage Recovery Kit は、SPS 環境の Network File System (NFS) ソフトウェアに対して障害回復保護機能を提供します。SPS のユーザは、エクスポートされた NFS ファイルシステムを SPS 階層のストレージ基盤として使用できます。
SPS Logical Volume Manager (LVM) Recovery Kit	steeleye-1kLVM-9.0.2-6513.noarch.rpm	SPS for Linux Logical Volume Manager (LVM) Recovery Kit は、他の SPS Recovery Kit に対して論理ボリュームのサポートを提供します。SPS で保護されたアプリケーションは、ストレージ管理の簡素化、要件変更に応じた動的なボリュームのサイズ変更など、Logical Volume Manager が提供するメリットを活用できます。
SPS Software RAID (md) Recovery Kit	steeleye-1kMD-9.0.2-6513.noarch.rpm	SPS for Linux Software RAID (md) Recovery Kit は、他の SPS Recovery Kit に対してソフトウェア RAID のサポートを提供します。SPS で保護されたアプリケーションは、低コストでのデータ冗長化、SAN 経由でのデータレプリケーション、ストレージ管理の簡素化など、ソフトウェア RAID が提供するメリットを活用できます。
SPS PowerPath Recovery Kit	steeleye-1kPPATH-9.0.2-6513.noarch.rpm	SPS PowerPath Recovery Kit は、EMC PowerPath マルチパス I/O デバイスを使用するアプリケーションを保護します。
SPS Device Mapper Multipath (DMMP) Recovery Kit	steeleye-1kDMMP-9.0.2-6513.noarch.rpm	SPS Device Mapper Multipath (DMMP Recovery Kit) は、DMMP デバイスを使用するアプリケーションおよびファイルシステムを保護します。SPS はそれらのアプリケーションおよびファイルシステムと連携し、保護を提供できるようになります。
Hitachi Dynamic Link Manager Software (HDLM) Recovery Kit	steeleye-1kHDLM-9.0.2-6513.noarch.rpm	Hitachi Dynamic Link Manager Software (HDLM) Recovery Kit は、Hitachi Dynamic Link Manager Software デバイスを使用するアプリケーションを保護します。
SPS NEC iStorage StoragePathSavior (NECSPS) Recovery Kit	steeleye-1kSPS-9.0.2-6513.noarch.rpm	SPS NEC iStorage StoragePathSavior (NECSPS) Recovery Kit は、NEC iStorage StoragePathSavior v3.3 以降のマルチパス I/O デバイスを使用するアプリケーションを保護します。
SIOS DataKeeper	steeleye-1kDR-9.0.2-6513.noarch.rpm	SIOS DataKeeper for Linux は、SPS 環境に統合データミラーリング機能を提供します。共有および非共有のストレージ環境での SPS リソースの運用が可能になります。
SPS WebSphere MQ Recovery Kit	steeleye-1kMQS-9.0.2-6513.noarch.rpm	SPS for Linux WebSphere MQ Recovery Kit は、WebSphere MQ キューマネージャおよびキューマネージャストレージサイトに対して障害回復保護機能を提供します。これにより、プライマリ WebSphere MQ サーバやキューマネージャで障害が発生しても、人手の介入なしに迅速にプライマリサーバや指定のバックアップサーバで復旧することが可能です。

パッケージ	パッケージ名	説明
Quorum/Witness Package	steeleye- lkQWK-9.0.2- 6513.noarch.rpm	SPS Quorum/Witness Package を使用すると、クラスタを構成しているサーバを判断する調停役として機能するため、各ノードは障害ノードのステータスに関して「セカンドオピニオン」を得ることができます。フェイルオーバー先となることができるノードは、Witness サーバが障害となったノードのステータスに関して同じ意見である場合のみ、リソース起動が許可されます。

SIOS Protection Suite for Linux Version 9 の新機能

製品	機能
このリリース (9.0.2) の新機能	
LifeKeeper Core	Red Hat Enterprise Linux Version 7.2のサポート ※ MySQL RKはRHEL 7.x/CentOS 7.x/OEL 7.xをサポートしていません。
	OpenSSLパッケージを1.0.1qに更新
	バグの修正
MQ	WebSphere MQ –マルチバージョンの WebSphere MQ のサポートが追加されました。本サポートにより、バージョン 7.1、7.5、および 8.x のキューマネージャのすべてを同クラスタノードで保護できるようになりました。
	mqm userだけがMQ commandを実行するために使えるというRecovery Kitの制限を除外。この変更により、mqm groupのどのuserでもRecovery KitでMQ commandを実行することが出来る。
	バグの修正
IP, Filesystem, DMMP, DataKeeper, EC2, PostgreSQL, Power Path, SAP, SAP DB/MaxDB, Oracle	バグの修正
Licensing	FlexNetの新しいバージョンへ更新
バージョン 9.0.1 の新機能	
LifeKeeper Core	バグの修正
DataKeeper	バグの修正
バージョン 9.0 の新機能	

バグの修正

製品	機能
LifeKeeper Core	Red Hat Enterprise Linux Version 6 Update 7 サポート (2015 年 10 月に認定)
	Community ENTerprise Operating System (CentOS) Version 6 Update 7 サポート (2015 年 10 月に認定)
	Oracle Linux Version 6 Update 7 サポート (2015 年 10 月に認定)
	SUSE SLES 11 SP4 サポート (2015 年 10 月に認定)
	Chefサポート (2ノードのDataReplication構成で、IP/FileSystem/Apache/MySQL/PostgreSQLのARKが対象)
	詳細な説明を記載したSPS for Linux のパラメーター 覧を追加し、lkchkconfコマンドを追加
	vSphere 6のサポート
	reiserfsファイルシステムタイプのサポートを廃止
	Oracle Linux Version 7.0/7.1でサポートされるARKは、LifeKeeper for Linux v8.4.1と同じです (対象ARK: PostgreSQL, MySQL, Oracle, DB2, Apache, Postfix, DMMP, LVM, NFS, NAS, Samba, MD, EC2, Route53, Openswan)
バグの修正	
DataKeeper	DataKeeper for LinuxのRewind機能を廃止 (バージョンアップする場合は、先にRewind機能を停止してください)
	バグの修正
GUI	JRE 8u51のサポート (JRE 7はサポートされません)
	Chromeブラウザのサポートを廃止
	バグの修正

バグの修正

下記は、最新のバグの修正および拡張機能のリストです。

バグ	説明
2711	MQリソースの作成時にQueue Managerと／もしくはリスナーが実行されていない時のエラーメッセージの長さの問題を解決
2726	MQ commandがroot userとして実行される問題を解決
2967	廃止されたMQ commandであるamqiclenを使ったコードを除外
2971	廃止されたMQ commandであるamqiclenを使ったコードを除外
3048	MQリソース作成時、Queue Managerに関連する選択リストにIPアドレスを制限
3069	MQリソース作成時、不適切なIPアドレスが表示されることがある問題を修正

バグの修正

バグ	説明
3100	廃止されたMQ commandであるamqiclenを使ったコードを除外
3104	廃止されたMQ commandであるamqiclenを使ったコードを除外
3405	quickCheck中、MQのログメッセージが正しく記録されない問題を修正
7012	DMMP RKのSCSIHALTのデフォルト値を変更
7031	Oracleリスナーリソース作成時、不正確なIPアドレスが表示されることがある問題を修正
7081	クラッシュ後、MaxDBリソースが正しく起動しない恐れがある問題を修正
7090	ポートが既に使用されている状況でもPostgreSQLの拡張でfailしない問題を修正
7099	DataKeeperの圧縮処理を行うbalanceが、高負荷な状況でハングアップする場合がある問題を修正
7131	ハートビートのログの形式を改善
7138	AWS API不通時にquickCheckが失敗する問題を修正
7140	FILESYSFULLWARN/FILESYSFULLERRORに0を設定した場合、警告が無効化されていない問題を修正
7141	AWS API不通時にイベント通知が正しく行われぬ問題を修正
7143	7系 OSにおける、Systemdへの対応を追加
7144	lksupportコマンド実行時、MQのデータ取得にともなう問題を修正
7150	マルチサイト構成の共有ノード間で、data_corruptフラグの設定が正しくないためにスイッチオーバーしないことがある問題を修正
7151	system リカバリーに失敗し、システムが停止した際に、7系 OSにおいて、ログの欠損が発生することがある問題を修正
7159	DataKeeperによる圧縮データの送信時、不正確なデータがターゲットノードに送られる恐れがある問題を修正
7167	DataKeeperリソースの右クリックメニューにおいて、同じ項目が2回表示される問題を修正
7170	CoreとSAP RK Perlモジュール間での関数名の競合を解消
7171	Power Path RKを変更し、VPLEX実行時のpowermt出力フォーマットの違いに対応
7172	Set Confirm Failover Onの設定が機能していなかった問題を修正
7176	7系 OSにおける、IPリソース作成時のネットマスクのデフォルト設定が正しくない問題を修正
7186	コミュニケーションパスのハートビート停止の誤検知に関連する問題を解消

システム要件

SPS の製品要件

SPS for Linux は「Linux Configuration table」に示す最低要件を満たすすべての Linux プラットフォームでサポートされます。サポート対象のオペレーティングシステム、アプリケーション、仮想化環境については、SPS サポートマトリックスを参照してください。

注記: Linux サーバ上の SPS と SPS for Windows は、同時には使用できません。

説明	要件
Linux オペレーティングシステム	個々のオペレーティングシステム情報については、「Linux Configuration table」を参照してください。
仮想環境	<p>仮想マシン内で起動するゲスト OS が Linux Configuration Table に記載されているサポート対象のバージョンのうちの 1 つである限り、SPS for Linux はハイパーバイザーに依存しないように設計されています。以下の仮想環境は SIOS Protection Suite for Linux が展開されている場合の例です。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Citrix XenServer v5 以降 • KVM • Oracle Virtual Machine(OVM) • VMware vSphere v4、v4.1、v5、v5.1、v5.5、および v6.0 • Amazon EC2 <p>設定要件および制限の詳細については、<i>LifeKeeper for Linux in VMware ESX Server Virtual Machines, Configuration Guidelines</i> を参照してください。</p> <p>ファイバーチャネル SAN および共有 SCSI クラスタ設定は、KVM および Citrix XenServer 仮想マシン上で動作する SPS for Linux をサポートしません。</p> <p>注記: いくつかの Amazon EC2 の設定において、シャットダウンストラテジーを "Do not Switchover Resources" に設定した場合に問題が起こることがあります。詳細は、トラブルシューティング > 既知の問題と制限をご確認ください。</p>
メモリ	SPS をサポートするシステムの最小メモリ要件は 512MB です。これは SPS がサポートする Linux ディストリビューションが必要とする最低限の容量です。システムのメモリは SPS が保護するシステム上で動作するアプリケーションに対してサイジングする必要があります。詳細については、アプリケーション設定を参照してください。
ディスク容量	<p>SPS Package Cluster に必要なディスク容量は次のとおりです。</p> <p>/opt – 約 100000 ~ 105000 (1024 バイト) ディスクブロック (インストールするキットに依存します)</p> <p>/ – 約 110000 (1024 バイト) ディスクブロック</p>

オプションの SPS リカバリソフトウェアの要件

次の表は、オプションの SPS リカバリソフトウェアのソフトウェア要件を示しています。

オプションのSPS リカバリソフトウェアの要件

SPS が保護するアプリケーションに適用される追加の要件や制限については、アプリケーション設定を参照してください。

製品	要件
SPS Apache Web Server Recovery Kit	Apache Web Server v2、v2.2、v2.4
SAP Recovery Kit	SAP v7 Enhancement Package 1 および 2、SAP v7.1 および SAP v7.3 SPS NFS Server Recovery Kit v8.1 SPS Network Attached Storage Recovery Kit v8.1
SPS SAP MaxDB Recovery Kit	SAP MaxDB v7.5、v7.6、v7.7、v7.8、v7.9 LifeKeeper v6 以降の Core Package Cluster
SPS Postfix Recovery Kit	Postfix ソフトウェアは、それぞれのサーバにサポートされた Linux ディストリビューションをインストールし、設定します。同じバージョンの Postfix が、それぞれのサーバにインストールされる必要があります。 LifeKeeper v6 以降の Core Package Cluster
SPS Oracle Recovery Kit	Oracle Database Standard Edition および Enterprise Edition v10g R2、v11g、v11g R2、v12c Oracle Database Standard Edition One (SE1) v10g R2、v11g、v11g R2、v12c Oracle Database Standard Edition 2 (SE2) v12c (AWSのEC2環境を除きます。既知の問題と制限 > Oracle Recovery Kit を参照してください。)
SPS DB2 Recovery Kit	IBM DB2 Universal Database v9、v9.5、v9.7、v10.1、v10.5 IBM DB2 Enterprise Server Edition (ESE) v9、v9.5、v9.7、v10.1、v10.5 IBM DB2 Workgroup Server Edition (WSE) v9、v9.5、v9.7、v10.1、v10.5 IBM DB2 Express Edition v9、v9.5、v9.7、v10.1、v10.5 LifeKeeper v6 以降の Core Package Cluster SPS NFS Server Recovery Kit v5.1 以降 (マルチパーティションを持つ DB2 EEE 用および DB2 ESE 用のみ)
SPS MySQL Recovery Kit	MySQL および MySQL Enterprise v5.1、v5.5、v5.6、v5.7 MariaDB v5.5 注意: v5.7 は RHEL 5.x 6.x / CentOS 5.x 6.x / OEL 5.x 6.x / SLES 11.x 上でのみサポートされます。Systemd環境で動作するOSはサポートされません。既知の問題と制限 > MySQL Recovery Kit を参照してください。

オプションのSPS リカバリソフトウェアの要件

製品	要件
SPS PostgreSQL Recovery Kit	PostgreSQL v8.3、v8.4、v9、v9.1、v9.2、v9.3、v9.4 EnterpriseDB Postgres Plus Standard Server v8.4 および v9 EnterpriseDB Postgres Plus Advanced Server v8.3、v8.4、v9.1、v9.2、v9.3、v9.4 EnterpriseDB Postgres Plus Solutions Pack v9.1、v9.2および v9.3
SPS Sybase ASE Recovery Kit	Sybase ASE 15.5 および 15.7
SPS Samba Recovery Kit	サポート対象のLinux ディストリビューションに付属の標準 samba ファイルサービス
SPS NFS Server Recovery Kit	Linux kernel version 2.6 以降 NFS Server およびクライアントパッケージがSLES システム上にインストールされている必要があります。
SPS Network Attached Storage Recovery Kit	NFS サーバまたは NAS デバイス v2、v3、v4 からマウントされた NFS ファイルシステムの NFS バージョン
SPS Logical Volume Manager (LVM) Recovery Kit	Linux Logical Volume Manager (LVM) バージョン 1 または 2 のボリュームグループ および論理ボリューム
SPS Software RAID (md) Recovery Kit	md に基づくソフトウェア RAID デバイス 注記: MD Recovery Kit は、SIOS DataKeeper と併用することはできません。
EMC PowerPath	2.6 ベースの Linux カーネルおよびディストリビューション PowerPath Kit v6.4.0-2: PowerPath for Linux v5.3 またはそれ以降 PowerPath Kit v6.4.0-2 以前: PowerPath for Linux v4.4、v4.5、v5、v5.1 Red Hat および SLES では sg3_utils rpm が必要です LifeKeeper v6 以降の Core Package Cluster
Device Mapper Multipath (DMMP)	2.6 及び 3 ベースの Linux カーネルおよびディストリビューション multipath tools 0.4.5 以降 Red Hat および SLES では sg3_utils rpm が必要です
Hitachi Dynamic Link Manager Software (HDLM)	日立 HDLM のマルチパス I/O 設定を参照してください。 Red Hat および SLES では sg3_utils rpm が必要です。

製品	要件
NEC iStorage Storage Path Savior (NECSPS)	iStorage StoragePathSavior for Linux v3.3 以降 RHEL5 RHEL6 SPS driver package(RHEL4 もしくは RHEL5) Red Hat および SLES では sps-L、sps-S、sps-E、sg3_utils rpm が必要です LifeKeeper v6 以降の Core Package Cluster
WebSphere MQ リソース	WebSphere MQ v7.1、7.5 および v8.0
Quorum/Witness Package	quorum/witness モードのクラスタに参加するすべてのノード (witness 専用のノードを含む) には、Quorum/Witness Server Support Package for SPS をインストールする必要があります。

クライアントのプラットフォームとブラウザ

SPS web クライアントは、Java Runtime 環境 JRE 8 update 51 をサポートするすべてのプラットフォームで動作します。現在動作が確認されている環境は、JRE 8 update 51 を使用した Linux、Windows 2008 R2、Windows 7、Windows8、Windows Vista 上の Firefox、および Internet Explorer です。その他の最近のプラットフォームやブラウザも、SPS web クライアントが動作する可能性があります。SIOS Technology Corp では、それらの環境でのテストをしていません。また、各ブラウザ固有の機能についても、テストしていません。

クラスタで、クライアントマシンの、hosts ファイルのすべてのホスト名とアドレスを明確にする必要があります(通常は /etc/hosts または C:\windows\system32\drivers\etc\hosts にあります)。それは、クライアントの接続時間を最小にし、DNS 停止時であっても接続することを可能とします。

インストールおよび構成

インストールおよび構成の詳細な情報については、SIOS Protection Suite インストールガイドを参照してください。

アップグレード

LifeKeeper は、LifeKeeper Version 8.3.x および Version 8.4.x から Version 9.0.x にアップグレードすることができます。これらより前のバージョンからアップグレードする場合、それまでのバージョンをアンインストールし、SIOS Protection Suite for Linux を再インストールする必要があります。それまでのバージョンをアンインストールしないで v9.0.x へアップグレードしたい場合には、一度 8.3.x または 8.4.x にアップグレードした後、さらに 9.0.x にアップグレードする方法をとることもできます。

ストレージとアダプタのオプション

共有ストレージ設定において SPS が現在サポートしているディスクアレイストレージモデルやアダプタ、およびそれらの認定の種類の一覧については、ストレージとアダプタのオプショントピックを参照してください。それらのアレイおよびアダプタのドライババージョンやその他の設定要件の詳細については、ストレージとアダプタの設定トピックに記載されています。

テクニカルノート

SPS 環境に関連した構成および動作上の問題点についてテクニカルノートをお読みになることを強くお勧めします。

pdkshの場所の変更

8.1 より前のバージョンのSPS のセットアップスクリプトによってインストールされた pdkshの場所が移動されました。pdkshは以前は /usr/bin/kshIに置かれていました。現在は、/opt/LifeKeeper/bin/ksh に置かれています。SPS のセットアップによってインストールされた pdksh バージョンに依存する顧客の書いたスクリプト (/usr/bin/ksh) はすべて、新しいパスに反映させるよう修正する必要があります。

既知の問題

SIOS Protection Suite for Linux テクニカルドキュメンテーションのトラブルシューティングセクションの既知の問題と制限と、DataKeeperトラブルシューティングセクションを参照してください。

